

# 令和5年度 地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業 京都府の事例（2022年度～）

## <取組の内容>

### 【実施体制の整備】

- 支援コーディネーター、臨床心理士等で構成された「ユース・アシスト(立ち直り支援チーム)」、地域に密着した居場所である「ユース・コミュニティ」を設置し、府内の「学校」、「児童相談所」、「若者サポートステーション」等の関係機関と連携することで実施体制を整備。

### 【学習相談・学習支援の実施】

- 「ユース・アシスト(立ち直り支援チーム)」及び「ユース・アシスト(立ち直り支援チーム)北部サテライト」において、高校中退者が多く含まれる非行等の問題(二次障害や特性を持ち合わせた場合も含む)を抱えた少年を対象に更生保護施設や児童相談所、学校等と連携しながら、個別に学習支援・就業支援等を実施。
- 本人の希望に応じ、企業やNPOといった協力団体での就労体験や若者サポートステーションへの誘導を実施。

### 【広報の取組】

- 業務運営委員会を年2回開催し、具体的方策等を検討、ユース・アシストやユース・コミュニティの活動内容がわかるチラシを作成し、学習支援・就業支援事業の周知を実施。

## <取組の成果>

- ユース・アシストの支援では31名、ユース・コミュニティでは33名、合計64名の相談・学習支援の利用があった。利用者のうち、3名が高卒認定試験を受験し、1名が科目合格した。
- 問題を抱えた少年は、孤立しがちであるため、今後の進路相談ができる大人がいることで将来に目標がもてるようになったり、個別の定期的な学習により、暴力等の問題行動が落ち着き、進学や就職につながったケースも見られた。

## <今後の取組>

- 非行等の問題を抱え、不登校・低学力といった困難を抱えた生徒が多いという課題について、関係機関との連携を深め、それぞれの問題意識を高めることで、今まで支援が届かなかった対象者への周知、利用の促進を目指す。
- 学習支援の効果を盛り込んだ広報チラシを活用し、事業の認知度の向上につなげることで、利用の促進を目指す。